

令和7年度食品ロス削減推進サポーター活動報告

任意回答 計128団体(個人を含む)

NO	団体名(順不同)	団体独自の活動	地公体連携	地域イベント等	学校授業	社員教育	事業者等への助言	事業者連携	その他	具体的な取組内容について ※自由記述
1	認定NPO法人 地域環境ネットワーク				●					小学校と大学の講義の中で、温暖化防止と関連付けた説明をした
2	特定非営利活動法人イー・ピーニング	●	●							大阪府のもったいないやん活動隊の一員として、 ・吹田市廃棄物減量等推進員全体会にて、「なんでやろう？食品ロスカードゲーム」実施のサポート ・守口市の百貨店での、環境関連催事にて、「なんでやろう？食品ロスカードゲーム」と「釣りゲーム」の実施 ・おおさかもん祭り(大阪産・大阪産名品の食イベント)にて、「なんでやろう？食品ロスカードゲーム」と「釣りゲーム」の実施 当団体独自の活動として、大阪南港ATCでの咲洲こどもEXPOに、「なんでやろう？食品ロスカードゲーム」の実施を企画し、大阪府のもったいないやん活動隊に協力いただいた。
3	由利エコマイスター	●	●	●				●		地域の学習会 環境汚染 食品ロス削減 会食での運動
4	脱温暖化プロジェクトせら			●				●		見切り品廃棄削減のポスターを作成し、ショージ世羅店様に掲示 世羅町内の保育所に、食ロス削減に関するぬり絵を楽しんでもらい、その絵を世羅町のスーパーであるショージ様に掲示してもらいました。
5	NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット		●		●					1. 「環境問題の基礎知識」をテーマの講座の中で、食品ロスに関して情報提供 2. 相模原市立の小学校10校において、1年生から6年生までの学年と支援学級において、合計20時間のSDGsの出前授業を「食品ロスと食品リサイクル」をテーマに実施した。デジタル教材と一部冊子を使用した。 3. リサイクルループでできた豚肉を授業終了後に、SDGs給食として各校で食する。
6	環境アドバイザー・高崎地区会	●	●	●	●			●		地域の店と連携し、消費者に啓発した。 学童保育の生徒に啓発活動した。 小中学校に行き、県の環境サポーターとして、生徒の啓発活動をした。 市、県の環境フェスティバル、NPOフェスティバル等にて食品ロスを啓発した。
7	NPO法人 環境カウンセラー千葉県協議会	●	●							・日本の現状～世界の現状、取り組みの具体的な事例と資料を提示し、それらを基に参加者それぞれが意見や考えを出し合う中から個々人の“気づき”を促し自身の行動につながる講座を目指している。 ・単に「食品ロス」だけの視点ではなく、SDGs全体の課題と直接間接に関わり合う課題に向き合い、グループ学習を軸に“考え合き合う”共有時間を重視。 そのためのより適切な資料等の準備に心を砕いている。
8	特定非営利活動法人大阪環境カウンセラー協会	●	●	●	●					今年度は、大阪女学院中学・高等学校の環境問題研究部と協働を始めました。彼女たちの活躍は、予想以上の結果を残してくれました。廃プラを使った食品サンプルづくりのワークショップで「人に伝える」経験を積み、彼女たち自身が伝え方を考え、主体的に取り組みました。 福島区民センターの出前授業では、消費者庁が作成した「うんこドリル」の読み上げを担当し、講師デビューを果たしました。 ・子どもたちにとっては“少し年上のお姉さん”の存在が刺激になり、高校生にとっても「教える経験」が大きな成長につながっています。 ・保護者の方からは「高校生と触れ合う機会が貴重だった」と大変喜ばれました。 ・次世代育成として、とても価値のある取り組みだと自負しているところです。 昨年、5回以上活動に参加された4名が「なにわエコ会議賞」を受賞し、東京遠征でワークショップを担当するまでに成長しています。
9	NPO法人ピオスの会	●	●							生ごみリサイクルの講座の中で、家庭から出される可燃ごみの組成の中の生ごみの割合、その中の食品ロスの割合を示し、全国では家庭系と事業系の食品ロスがほぼ同量で、国連の食糧援助の量に匹敵することを伝え、食品ロスを出さないように生活していくことの大切さを伝えている。生ごみのリサイクルは、本来食品の食べられない部分を資源化(土に還す)することであると。

令和7年度食品ロス削減推進サポーター活動報告

任意回答 計128団体(個人を含む)

NO	団体名(順不同)	団体独自の活動	地公体連携	地域イベント等	学校授業	社員教育	事業者等への助言	事業者連携	その他	具体的な取組内容について ※自由記述
10	木津川市子どもエコクラブサポーターの会		●	●	●					■木津川市内の小中学校で、SDGs学習やエシカル消費学習、食品ロス減量学習の出前授業を行った。授業では食品ロスの問題や木津川市内のフードドライブ活動を紹介した。内訳は、エシカル消費をテーマにした授業(6校24クラス)、SDGs学習授業(5校23クラス)、食品ロス減量をテーマにした授業(1校3クラス)で実施した。 ■令和8年1月15日、木津川市民向けセミナーで「可燃ごみを減らすため」のテーマでの講義でも食品ロス削減目標や削減方法等を紹介した(約40名参加)。
11	公益財団法人京都市環境保全活動推進協会	●		●	●					当協会では、京都市内における環境保全活動の推進を目的として、環境学習施設「京エコロジーセンター」を拠点に、来館者や市民を対象とした普及啓発活動を実施している。こどもから大人まで幅広い層に向けて、くらしの中で実践できる環境保全活動として、食品ロス削減の重要性も伝えており、理解の促進と適切なアドバイスなどを行っている。また、環境保全活動を自ら実践し、市民目線でわかり易く伝える存在として、京エコロジーセンターで活動する市民ボランティアの育成も行っている。
12	群馬県環境アドバイザー連絡協議会	●	●	●						1, 食品ロス削減に関する学習会 2, 環境フェスティバル、環境フォーラムの開催 3, 環境にやさしい買い物スタイルキャンペーンでの協力
13	ちょうしのたからプロジェクト		●							銚子ジオパーク講座の中で食品ロス削減について説明した
14	一般社団法人あきた地球環境会議		●	●	●			●		・当法人が運営している環境配慮行動促進アプリ「あきエコどんどんプロジェクト」において、食品ロス削減に関する様々なアクションメニューを提示し、県民に呼びかけを行った。 ・昨年度に引き続き、サポーターの一人が自治体の食育推進会議委員になっており、委員会へ定期的に参加をした。 ・継続して行っている講師派遣事業において、教育機関へ出向きSDGsも絡めながら座学及び実践(エコクッキング)を行った。
15	おかやまエコマインドネットワーク	●		●	●					7月8日 天城小学校 4年生 3クラス 77人と先生と大人5人 8月31日 県立図書館2F 映画「フード・インク ポスト・コロナ」上映 参加人数:70人 9月2日 第5福小学校 4年生 1クラス 20人と先生と大人5人 10月2日 鹿田小学校 5クラス 143人と先生 10月15日 学校法人就実学園就実小学校 1~6年生 20人 先生と保護者 11月22日 倉敷中庄夫人学級 30人 12月7日 岡山市立西大寺公民館 『地域を活かす農業と食の安全』子どもたちの食を守る』 参加人数:24人 R8年1月24日 倉敷中庄消費生活学校 35人
16	特定非営利活動法人ふくおか環境カウンセラー協会		●	●	●				●	・福岡県食品ロス削減推進協議会に委員として出席し、飲食店用福岡県独自の「持ち帰り容器」を作る提案をしたところ、採用され、このほど「福岡県持って帰っていいと(eat)ボックス」が実現し、県下の飲食店に頒布された。 ・大学の授業で講演。

令和7年度食品ロス削減推進サポーター活動報告

任意回答 計128団体（個人を含む）

NO	団体名（順不同）	団体独自の活動	地公体連携	地域イベント等	学校授業	社員教育	事業者等への助言	事業者連携	その他	具体的な取組内容について ※自由記述
17	一般財団法人 広島県環境保健協会	●	●	●	●					<p>【公衆衛生推進協議会の活動】</p> <p>支援団体に食品ロス削減の教材・メニュー作成し、提供することで、住民への普及啓発事業を行った。</p> <p>「令和7年度食品ロス削減事業～食品ロス削減で脱温暖化大作戦～」を呼びかけ、県内13市町公衛協が21の取り組み（食品ロス削減の実践呼びかけ；13件、「食品ロス」出前講座；6件、購入食材の追跡調査；2件）を行った。約1000枚のアンケートも回収し、食品ロスの認知度や食品ロスと地球温暖化の関わりについての理解度を知ることができた。</p> <p>【地球温暖化防止活動推進センターの活動】</p> <p>①学習会の実施 地球温暖化対策地域協議会会員を対象に、株式会社ハローズ 太田光一さんを講師として、食品ロス削減や環境に配慮したスーパーの取り組み、食品ロス削減に対するスーパーの悩みなど情報提供いただき、食品ロス削減に繋がる家庭での取り組みは、何ができるか考える学習会を実施した。</p> <p>②広島県らしさがあり、食品ロス削減に繋がるレシピを、専門家（広島静心調理製菓専門学校）と協議しながら4品のレシピを考案し、料理教室の実施や学校給食メニューとしての提供を行った。</p> <p>③地球温暖化対策地域協議会会員を対象に、食品ロス削減に繋がるオリジナルレシピ「ひろしま食べきりごはん」を使って、エコクッキングを実施した。また、調理の際に出た野菜くずを利用したコンポストの作り方を体験学習した。</p> <p>④フードドライブの実施 地球温暖化対策地域協議会及び、地球温暖化防止活動推進員が集まるフォーラムで、参加者に食べる予定のない食品を持参してもらう「フードドライブ」を実施した。集まった食品は、広島市社会福祉協議会へ寄付し、必要な方に使っていただいた。</p>
18	大阪環境カウンセラー協会								●	<p>2025年度「もったいないやん活動隊」活動</p> <p>「もったいないやん！活動隊」では、食品ロス削減をテーマに、学校・障がい者施設・地域団体など、さまざまな場で学びの機会を提供してきました。</p> <p>■ 子どもたちの学び カードゲームを使った授業では、子どもたちが“どうすれば捨てずに済むか”を真剣に考え、日常の行動につながる気づきが生まれました。</p> <p>■ 障がい者施設でのワークショップ 参加者の皆さんから、日々の暮らしの中での工夫が自然と語られ、家庭での実践が広がっていることを実感しました。</p> <p>■ 地域との交流 地域団体との意見交換では、生活の中にある「もったいない」を共有し、世代を超えて学び合う場となりました。</p> <p>■ 若い世代の活躍 大阪女学院中学・高等学校環境問題研究部の皆さんをはじめ、若い世代が主体的に学び、伝える側へと成長している姿は、活動の大きな励みになっています。</p> <p>■ 食品ロス削減は「今日からできること」 特別な取り組みではなく、日々の小さな選択の積み重ねが、地域全体の力になります。「おいしく・楽しく・無理なく」続けられる工夫を、これからも広げていきます。</p>
19	東大阪市消費者団体協議会	●	●	●						<p>①6月食育フェスタ 展示 アンケート調査 カードゲーム ②10月環境イベントECO東大阪 アンケート調査 展示 ③東大阪市消費生活展 展示 アンケート調査 ④日下リージョンセンター文化祭 アンケート調査 展示 カードゲーム</p>
20	福岡県生活協同組合連合会								●	<p>22の会員団体があり、今年も福岡県が作成した「てまえどり」のポスターとPOPの掲示に取り組んだ</p>

令和7年度食品ロス削減推進サポーター活動報告

任意回答 計128団体(個人を含む)

NO	団体名(順不同)	団体独自の活動	地公体連携	地域イベント等	学校授業	社員教育	事業者等への助言	事業者連携	その他	具体的な取組内容について ※自由記述
21	石川県生活学校連絡会	●		●				●		食品ロス削減ミニステッカーを作成(買い物前に冷蔵庫をチェック、つくりすぎない、残さず食べる)し、メンバー全員に配布。冷蔵庫に貼って意識づける。フードドライブの実施、フードバンクと協力し、地域の子ども食堂や福祉施設、一人暮らし高齢者に食品を届ける。石川県のイベント(いしかわ環境フェア、消費生活展など)にパネル展示やワークをする(皆で育てようecoの木:食品ロス削減で自分のできることを記入してもらう)
22	山城ごはん	●								・月1回頻度「食農体験」開催/木津川市内「鹿背山(かせやま)」という里山で周辺地域のファミリー10組程集め畑作業、野外クッキング、自然保護、環境学習等実施。環境学習の時間に食品ロスをテーマに学びの時間を毎回作っています。 ・2025/11~2026/3 全4回の講座(木津川市内レンタルスペース)で“食と環境”をテーマに環境学習実施。
23	一般社団法人神戸市婦人団体協議会	●		●			●	●	●	○2人暮らしだと食材が余るので定期的に近所の人を招いて食事会をしている。 ○消費者学級でキエーロの実施をしてゴミが減って喜ばれた。 ○コンビニとコープさんからフードドライブ商品をいただき、こども食堂やこどもの居場所で使用している。 ○こどもの居場所食事支援を春休み、夏休み、冬休み(計7回)地域福祉センターで行っている。 ○婦人会の定例会で食品を回収しこども食堂に寄付。 ○スーパーでも買い物は「てまえどり」、規格外の果物・野菜を購入し、賞味期限近くの10~30%割引の利用を心がけている。 ○冷蔵庫の中を見てから買い物に行く。 ○冷凍食品の上手な利用方法を調理実習をした。 ○消費者学級開講式でSDGsをゲームで体験して食について考えた。 ○食品ロスが出ないように料理教室でメニューを考えて実践した。 ○ネギは根を庭へ植えて再生。キノコは軸を利用してスープ、だし昆布は刻んで佃煮にする。 ○外食の時に持ち帰り可、量の注文ができる店を選ぶ。 ○生ゴミ削減の出前トーク「こうベキエーロ」を講師を招いて行い家庭でもできるコンポストについて学んだ。 ○毎年12月に「食品ロスを減らしましょう」のチラシを2000世帯に配っています。 ○家で食べきれない食品を持ちより安くで買ってもらえるようバザーをしました。 ○消費者学級「めざせ!食品ロス・ゼロできることから始めてみよう」開催。
24	(公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会(NAC)	●	●	●	●	●	●	●	●	NACS食生活委員会には39名のNACS食品ロス削減推進サポーターから、全国各地で1650名+1380世帯の消費者に向けての啓発活動があったことが報告された。具体的な例を挙げると、大規模なものでは「かながわデコ活炭素フェア」での来場者への啓発(210名)、徳島県消費者協会と連携した啓発活動(200名)など、学生・児童を対象としたものでは、東北公益大学や豊田市立五ヶ丘小学校(5年生)での講座など、特徴のある事例では長野県内4か所で開催された農村地区に在住する婦人に向けてのエコクッキング講座、山形県室川地区での高齢者向けの講座、名古屋市教育委員会主催の生涯学習講座、世田谷区における区民講師向けの知識を深掘した講座などを例として挙げたい。それぞれ、対象ごとに創意工夫を凝らしていることがサポーターの報告からわかる。会員サポーターによるフードバンク活動も積極的に行われている。また、報告がないサポーターも「できることをできる範囲で一所懸命」をモットーに、身近な場所で家族、友人、知人への啓発活動を行っている。
25	苫小牧消費者協会	●	●	●				●		○出前講座開催に力を入れています。(26年度は町内会・サークル・長生大学など8件、受講者数235名に聞いていただけました。サポーター用テキストを使用して講師となって活躍しています。募集は何人からでも受け付けています。皆さん上手になりました。)○市主催の消費生活展ではコーナーを設けクイズ、啓発ポスター作成、パソコンを用意し消費者庁サポーターHPも見ていただきました。パンフレット配布(子供達にはうんこ食育ロスドリルが好評でした。○削減推進サポーターの仲間増やし ○フォローアップ講座受講フードドライブ活動他
26	町田市消費生活センター運営協議会	●	●							2月に食品ロス削減料理研究家の行長万里氏を講師にお迎えし、「食品ロスを削減〜ムダなし料理を楽しもう〜」の講演会を開催し、市民等へ啓発活動を行いました。

令和7年度食品ロス削減推進サポーター活動報告

任意回答 計128団体（個人を含む）

NO	団体名（順不同）	団体独自の活動	地公体連携	地域イベント等	学校授業	社員教育	事業者等への助言	事業者連携	その他	具体的な取組内容について ※自由記述
27	静岡市食生活改善推進協議会	●	●							「スマートクッキング」と題して買い物から片付けまで環境を考えた料理教室を開催。 料理教室では食品ロスを出さないために、手を付ける前に食べられる人に分けたり、食べられる量をよそってもらう。 「親子の食育」「高齢者の教室」等でも講話をするように会員に周知している。
28	特定非営利活動法人いしかわ食わかちai	●	●	●						<p>団体独自のイベントとして「ののいち・サステナブル・フェス 2025」を開催しました。</p> <p>主催：NPO法人いしかわ食わかちai 共催：学びの杜ののいちカレード 特別協力：野々市市 後援：農林水産省北陸農政局／石川県／北國新聞社／FM-N1 特別協賛：Car_locate株式会社</p> <p>1. 事業概要 本事業は、野々市市内の公共施設「学びの杜ののいちカレード」を会場に、地域の企業・団体・行政・教育機関が連携し、来場者が『遊んで・学んで・体験して』持続可能な暮らし（SDGs）を身近に感じる機会を提供することを目的として実施した。</p> <p>行事名ののいち・サステナブル・フェス 2025 開催日令和7年10月18日（土） 開催時間10:00～16:00 会場学びの杜ののいちカレード（野々市市太平寺4-156） 形式対面開催（館内・屋外広場を活用した体験型イベント） 主なテーマフードドライブ／フードロス削減、SDGs体験、環境・エコ、循環（リユース）、学び×体験 参加者（来場者）来場者数：500名 アンケート回答：53件 事業区分令和7年度 野々市市SDGs未来都市協働事業</p> <p>2. 事業の内容（実施プログラム） チラシ記載の内容を基に、以下のとおり多様な体験コンテンツを配置し、来場者が関心に応じて回遊できる構成とした。</p> <p>2-1. ステージ／ワークショップ（タイムスケジュール）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●10:00～11:00 和菓子手作り体験（株式会社森八） ●10:00～10:15 フードロスについて①紙しばいで学ぼう！（北陸農政局） ●10:45～11:00 フードロスについて②ドリルで学ぼう！（北陸農政局） ●10:00～11:00 つくろう！海ごみアート（野々市市SDGs推進協議会） ●11:00～ 和太鼓セレモニー（DIA+） ●13:00～14:00 食育こども食堂（LaLuce） ●14:00～15:00 AI×SDGsセミナー（石原 愛信 講師） ●15:00～ つくろう！海ごみアート コンテスト結果発表 <p>2-2. ブース出展（館内：ののいちSDGs体験ひろば）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●いしかわ食わかちai：フードドライブ（家庭で余っている食品を必要とする団体へつなぐ） ●おひさま整体院：自分では気づけない身体のゆがみの可視化・セルフケア啓発 ●日本WEB3推進協会：家族写真をAIでアニメ風キャラクター化する体験 ●北陸農政局：みどり緑日（ゲームを通じて環境にやさしい農業を学ぶ） ●ほいっほ：SDGs絵本読み聞かせ（10:30～14:00） ●Acl.dronetechno：トイドローン組み立て・操縦体験 ●CURU∞CURU：こども服交換（リユースによる循環の体験）

令和7年度食品ロス削減推進サポーター活動報告

任意回答 計128団体(個人を含む)

NO	団体名(順不同)	団体独自の活動	地公体連携	地域イベント等	学校授業	社員教育	事業者等への助言	事業者連携	その他	具体的な取組内容について ※自由記述
	27 特定非営利活動法人いしかわ食わかちai (前ページからの続き)									<p>•くじらアパートメント：残布を活用したワークショップ</p> <p>•(株)LODU&金沢工業大学：SDGsカードゲーム体験</p> <p>2-3. 屋外・憩いの広場（自然／動物／エコ体験）</p> <p>•NPOエコラボ：ソーラークッキング実演、能登半島地震復興支援チャリティ制作 等</p> <p>•ヴィデン乗馬クラブ クレイン金沢：体験乗馬（ポニー『トトロ』）</p> <p>•コイヤーグラウンドジャパン：人・ペット・環境にやさしいコイヤーマット紹介</p> <p>•CANFEEL：アウトドア用品（“忘れられない非日常”の提案）</p> <p>•myon*myon booth：犬ちゃんフォトブース</p> <p>•PICOBAS E：インド刺繍リボン雑貨、犬ちゃんグッズ</p> <p>2-4. グルメコーナー（カラダにうれしい／地球にやさしい）</p> <p>•GOODFORLIFE、Cafe DOT、ポジティブ団体GRANDE、プルチーナポリ、金澤串割烹 一、クチーナ ボランテ、世界で2番目に美味しいメロンパンアイス、リトカフェ、Comcobito-橋原製菓 ほか</p> <p>3. 実施体制・協力機関 地域の多様な主体が連携することで、環境・食・学び・体験をワンストップで提供する運営体制を構築した。</p> <p>4. アンケート結果（概要） 来場者アンケート（53件）を集計し、事業効果の把握に活用した。主要設問の結果は以下のとおり。</p> <p>•回答者年齢：30代（15名、28.3%）、40代（14名、26.4%）、12歳以下（10名、18.9%）、60歳以上（7名、13.2%）、50代（5名、9.4%）、15～19歳（2名、3.8%）。</p> <p>•『考えやイメージが変わったこと』（複数選択）：『飲食品や服等のゴミを削減することは大切だ』34名（64.2%）、『自然を大切にすること・緑を増やすことは大切だ』24名（45.3%）、『SDGsに取り組むのは大切だ』21名（39.6%）、『歩く・自転車の利用も大切だ』11名（20.8%）。</p> <p>•フードドライブ：『今回は寄付していない』30名（56.6%）一方、『今回初めて寄付した』10名（18.9%）、『以前にも寄付経験あり』14名（26.4%）と、寄付行動・理解促進の入口として機能した。</p>
29	青森県食生活改善推進員連絡協議会	●	●		●					<ul style="list-style-type: none"> ・当会の会員に、食品ロスについて、資料配付、活用して講話。 ・幼保、小学校、高校、様々な料理教室(一般市民、親子対象)にて、講話。 ・「ゴミを出さない」「食材は使い切る」「食べきる」の三つの約束の講話、調理実習。
30	羽生市食生活改善推進員協議会	●								令和7年度 食品ロス削減推進サポーター向けフォローアップ講座を受講した。
31	青森県食生活改善推進員連絡協議会	●	●		●					<ul style="list-style-type: none"> ・当会の会員に、食品ロスについて、資料配付、活用して講話。 ・幼保、小学校、高校、様々な料理教室(一般市民、親子対象)にて、講話。 ・「ゴミを出さない」「食材は使い切る」「食べきる」の三つの約束の講話、調理実習。
32	泉佐野市食生活改善推進協議会		●	●						「めざせ！食品ロス・ゼロ できることから始めてみよう」の中面を拡大印刷してポスターを作成し、自治体主催のイベントにて掲示及び来場者へ説明を行いました。また同時に、消費者庁からいただきました啓発チラシ「めざせ！食品ロス・ゼロ できることから始めてみよう」、「計ってみよう！家庭での食品ロス」を配布し、食品ロス削減についての啓発をしました。
33	泉佐野市食生活改善推進協議会		●	●						「めざせ！食品ロス・ゼロ できることから始めてみよう」の中面を拡大印刷してポスターを作成し、自治体主催のイベントにて掲示及び来場者へ説明を行いました。また同時に、消費者庁からいただきました啓発チラシ「めざせ！食品ロス・ゼロ できることから始めてみよう」、「計ってみよう！家庭での食品ロス」を配布し、食品ロス削減についての啓発をしました。
34	尾花沢市食生活改善推進協議会	●								市民の方や団体の会員対象に伝達料理講習会を実施し、その中で食材を無駄にしない方法や余った食材でもう一品を準備するなど食品ロス削減の啓発を行った。

令和7年度食品ロス削減推進サポーター活動報告

任意回答 計128団体(個人を含む)

NO	団体名(順不同)	団体独自の活動	地公体連携	地域イベント等	学校授業	社員教育	事業者等への助言	事業者連携	その他	具体的な取組内容について ※自由記述
35	岩倉市健康づくりサポーター		●							災害用備蓄食品のローリングストックについて、市民へ展示により情報提供および調理実習を行いました。
36	富津市食生活改善サポーターの会			●						市内保育所、公民館の講座、市民を対象とした高齢者の教室で、食品ロス削減につながるポリ袋調理(バッククッキング)の普及を行った。
37	朝日町食生活改善推進協議会		●						●	・朝日町健康福祉まつりにおいて、町と連携し、フードドライブを実施した。 ・個人(飲食店)として、県の食品ロス削減飲食店の登録をし、R7.11/1~R8.1/31の期間、食品ロスに努めた。
38	利根町食生活改善推進員協議会	●								利根町保健福祉センター主催の健康教室において、食材を無駄なく使う健康レシピ紹介や使い切り、食べきりの啓発等を行った。
39	特定非営利活動法人 男女・子育て環境改善研究所	●	●							北九州市立男女共同参画センター・ムーブとの共催で3回開催した「父と子の料理教室」において、食材を無駄なく使用するレシピを講師と組み立てました。(ニンジン成型抜きした残りをキーマカレー入れたり、フルーツポンチに入れたスイカの皮を漬物にするやり方を試食とともに紹介、など)
40	中泊町役場	●								出前講座の開催。他団体の研修時に講師として参加
41	日出町役場		●							日出町公式ホームページへの掲載。日出町公式LINE等SNSへの投稿(食品ロス削減月間)。町主催イベントにおける啓発ブースの設置。
42	新潟市	●		●				●		・小学生などを対象に出前講座を実施 ・広報紙「サイチョブレス」で食品ロス特集を掲載 ・「にいがた市エコレシビコンテスト」を開催し、エコレシビをクックパッドに掲載 ・「てまえどり」の独自啓発ポップの作成・配布 ・宴会での食べ残しを減らすための「20・10・0運動」の展開 ・(株)クラダシと連携し生産現場での食品ロスを学ぶ社会貢献型インターンシップ「クラダシチャレンジ」の実施 ・民間企業の製品を活用して廃棄食品をこども食堂へ届ける「ごちそうさまキャラバン」の開催
43	青森県	●	●	●	●				●	青森県食品ロス削減推進計画の改定(第5次青森県循環型社会推進計画の一部として令和8年3月改定予定。計画期間R8~R12)
44	高知県	●	●							協議会等、団体メンバーが集まる会議等で、「参加者のイベント等で当該が食品ロス啓発の説明をします」と発言し、いくつかのイベントで説明を実施(サポーター登録もお願いするが、登録には至らず)。
45	鹿児島市消費生活センター	●	●	●						・当センター主催の研修会等にて食品ロス削減の普及啓発を行った(講話及びチラシの配布) ・当センター内の情報コーナーにおける特設コーナーの設置(パネル展示、チラシ及び本の配置) ・商業施設や学校でのパネル展の実施(パネルの作成及び掲示) ・市の広報紙やLINEによる情報発信
46	吉見町環境課	●			●			●		・イベント(環境フェア、環境まつり等)での周知 ・町内小中学校等への出前授業 ・県下一斉フードドライブ開催、フードドライブ団体主催の活動の周知
47	三戸町役場				●					小学5年生を対象に環境の出前授業を実施。
48	堺市役所 環境局 環境事業部 資源循環推進課	●	●					●		食品ロス削減を題材にした出前講座の実施。 食品ロス削減を題材にしたパネル展の実施。 イベントにてフードドライブの実施。 市内食品スーパーにててまえどりの掲示。
49	福岡県 環境部 循環型社会推進課		●	●	●					福岡県が認定する食品ロス削減マイスター兼食品ロス削減サポーターとして、県内の学校や地域の学習会、市町村が企画する食品ロス削減講座に派遣。 食品ロスの現状と食品ロス削減に向けた福岡県の取組の紹介、家庭でできる食品ロス削減の取組についての講義やエコクッキング、クイズ、グループワーク等を行った。

令和7年度食品ロス削減推進サポーター活動報告

任意回答 計128団体(個人を含む)

NO	団体名(順不同)	団体独自の活動	地公体連携	地域イベント等	学校授業	社員教育	事業者等への助言	事業者連携	その他	具体的な取組内容について ※自由記述
50	和歌山県			●	●					HPやSNS,ラジオ番組等による情報発信 出前講座 フードドライブ 講演会、料理教室
51	桜川市役所	●						●	●	・令和7年度に開催された「SAKURAフェスティバル」において、「食品ロス学びのコーナー」を設け、ポスターを掲示するとともに、パンフレットや冊子のほか食品ロス対策マグネット等のノベルティを配布しました。 ・フードバンク茨城と連携し、各庁舎窓口に「みずなBOX」を設置し、処分されてしまう食品をご寄付いただき、食べ物に困っている施設や生活困窮者などに提供しています。 ・賞味期限が近い災害用備蓄食料を、市役所職員に配布しました。
52	東みよし町・消費者協会		●					●		地元のスーパー（2店）で食品ロス削減キャンペーン、食品ロス啓発チラシとグッズ配布 フードドライブ、消費者協会から社会福祉協議会へ納品
53	京都府総合政策環境部循環型社会推進課				●				●	大学で消費生活関連の授業を3コマ担当しており、各授業の、SDGs・エシカル消費をとりあげる回で、食品ロスの現状、削減のための対策について取り上げました。また、そのうち1つの授業は食生活にも重点を置き、食品別流通と消費の学生プレゼンの中でそれぞれ食品ロス削減の取組も調べて発表するよう指導しました。
54	熊谷市環境推進課	●		●				●		本市主催の「エコライフフェア」及び「産業祭」にて、NPO法人と連携をしてフードドライブ活動を行った。 また、市政宅配講座「なくそう！食品ロス！」を開催し、市民への啓発を行った。
55	一宮市			●	●			●		市内の高等学校の生徒と小学校の児童に協働で、30種類の「てまえどり」ポップを作成してもらい、それを市ウェブページに掲載して店舗で活用してもらうことにより、市民に対して「てまえどり」の周知・啓発を行うことで、店舗から排出される食品ロスの削減を図った。
56	板野町消費生活相談所		●	●	●					・板野町消費生活相談所主催イベント「SDGs未来へつながる消費をin道の駅いたの」において、食品ロス削減スタンプラリー（クイズ）、パネル展示、地産地消カルタ、フードドライブ、学生によるパフォーマンス発表などを実施。 ・板野町内小学校放課後子ども教室へ出前講座。「エシカル消費について考えよう」と題して自作資料とあわせて「目指せ食品ロスゼロ（消費者庁冊子）」を使用して実施。食品ロス削減カルタや高校生による食品ロス削減絵本などを読み聞かせをおこなった。
57	熊本県	●	●		●			●		・生協及び県内3市町と連携した事業者向け「フードドライブ」の開催 ・県内高校等での出前講座の実施
58	大阪府食品ロス削減ボランティア「もったいないやん活動隊」	●	●	●	●			●		「もったいないやん活動隊」運営事務局を通じて、行政や事業者と連携した取組を17件実施。それ以外にも、それぞれが所属する団体の活動を通じ、啓発活動を行った。
59	松本市環境エネルギー部環境・地域エネルギー課	●		●	●			●		小学生を対象として、食品ロスをテーマとした環境教育を実施。 フードバンク信州と連携したフードドライブの取組み。
60	島根県								●	定常業務の中で、食品ロス削減に関する広報を行った（食品ロス月間におけるポスター掲示、県の食品ロス削減庁内会議における消費者庁からの情報の展開等）
61	神戸市消費生活センター	●	●	●						(以下、神戸市の事業) ・地域でのエシカル消費に関する出前講座(3回実施、62名参加) ・一般市民向け講座「“もったいない”から始めるエシカル消費」(1回実施、36名参加) (以下、神戸市消費生活マスター個人の活動) ・エシカル消費をテーマとした出前講座、市民向け講座で講師を担当(上記再掲) ・消費生活啓発員(神戸市以外の市の依頼)の定例会で啓発。

令和7年度食品ロス削減推進サポーター活動報告

任意回答 計128団体（個人を含む）

NO	団体名（順不同）	団体独自の活動	地公体連携	地域イベント等	学校授業	社員教育	事業者等への助言	事業者連携	その他	具体的な取組内容について ※自由記述
62	奈良県庁	●	●	●	●			●		<ul style="list-style-type: none"> ・啓発イベントの実施（食品ロスをテーマとした野菜の捨てられる部分を活用したワークショップ、家庭の食品ロス量を記録する資材の配布） ・展示の実施・小学校で食品ロスについての出前授業 ・10月（食品ロス削減月間）及び年末年始（食べきり啓発の時期）に集中的に啓発・啓発資材（リーフレット、ポスター等）の配布 ・SNS、バス広告による啓発 ・「食品ロスポータルサイト」による情報発信・直売所を介し、未利用農産物をこども食堂へ提供 ・未利用食品を提供できる事業者と提供を希望する団体とのマッチングシステムの作成 ・フードバンク活動を行う団体へ体制づくりなどの経費を補助 ・庁内においてフードドライブを実施し、フードバンクへ寄付 ・脱炭素行動変容促進イベントの実施・各学校において食に関する指導を実施 ・こども食堂コーディネーターを配置
63	株式会社インフィニバリュー 山梨大学 山梨農林大学校		●	●	●	●		●		<p>授業の内容に組み込んだ 山梨大学 担当講義、課題 校外授業、規格外農産物を活用した実習 山梨県立農林大学校専攻課1、2年 担当授業内商品開発規格外農産物を活用した商品を作り販売 販売時にもフードロス削減対策を伝えた</p> <p>農林水産省、経済産業省専門家として登壇時にフードロス削減対策について伝えた</p> <p>商品開発に活かした</p>
64	株式会社キニヨン				●					<p>国分寺市立第4中学校の探求授業「国分寺学×SDGs講座」において、食品ロス問題を啓発するワークショップ形式の授業を実施した。</p> <p>「もったいない」から始めよう食品ロスゼロチャレンジ というタイトルで、約80分間のワークショップを行った。</p>
65	(株)ケイバック				●					エコプロ展での学生への説明
66	株式会社アルファ							●		<p>食品ロス削減プログラム「もぐもぐチャレンジ」という施策を食品小売チェーンに提案。 食品小売店の未来の顧客である子育て世帯の親子をメインターゲットとして、楽しい買いもの体験をしながら、気が付けば食品ロス削減に貢献している施策を提案しております。（もぐもぐチャレンジの版元は株式会社アッシュとなります） https://www.popalpa.co.jp/mog/index_test.html</p>
67	株式会社minitts	●			●					<p>法人会や商工会議所などが主催する経営者向けの講演会で食品ロスが利益向上やSDGs発信に繋がることをお話しました。 また、アントレプレナーシップ推進大使として小学校や中学校の総合的な学習の時間で授業を実施した。</p>
68	(同) REBIRTH食育研究所			●	●					新潟市内の中学校での食育講演、市内幼保連携型認定こども園と地域の高齢者サポーターをつなげて、園児と職員による味噌作りサポートの取り組みを行った。
69	株式会社 office 3.11	●	●	●	●	●		●		年間40件程度の講演や、年間50件以上のメディア出演、書籍出版や記事執筆などを通して食品ロス問題を啓発しています。

令和7年度食品ロス削減推進サポーター活動報告

任意回答 計128団体（個人を含む）

NO	団体名（順不同）	団体独自の活動	地公体連携	地域イベント等	学校授業	社員教育	事業者等への助言	事業者連携	その他	具体的な取組内容について ※自由記述
70	株式会社Mizkan	●	●		●			●		<p>サステナビリティ活動の1つとして食品ロス削減に企業として取組んでおりますが、食品ロス削減推進サポーターとしては部署横断で有志メンバーが運営・活動に取り組み今年度も継続して以下のような活動を実施しました。</p> <p>①賞味期限が「食べられる目安」であることを実感するため、あえて「賞味期限が切れてしまったけれど、思い入れがあるのでなかなか捨てられずにいる食品」を家庭で発掘してもらい、それを食品メーカーの品質保証の知識を動員してまだ食べられるか判定し、食品がたどった歴史とエピソードを踏まえてどの食品が最も食品ロス削減推進の活動の啓もうに繋がるかという視点で競い合う、「食品ロス削減天下一武道会」を実施しました。10年前の食品は食べられるのか？など、ちょっとユーモアを交えて検証できたので、ポジティブに社内発信を計画しています。</p> <p>②京都工芸繊維大学の環境サークルと食品ロスに関する意見交換、活動支援の実施 ③賞味期限が近くなった防災備蓄品を社内配布した際に、リメイクレシピを添えて活用を促進 ④社内イントラネットでの食品ロス削減月間の呼びかけと川柳の募集 ⑤サポーター同士での家庭で実践できる食品ロス対策アイデアの意見交換と実践（キエーロ活用、過剰除去の見直しアイデアなど） ⑥本社の社員食堂において食品ロス削減を啓もうする掲示の実施 ⑦社内の有志を募集してサポーター育成を行いメンバーを増員</p> <p>これ以外に会社の業務の一環として、フードバンクへの食品の寄付、京都市とのエコクッキングの取り組み、賞味期限の安全率の見直し、賞味期限切れの問い合わせ時に美味しい目安であることのお伝え、などを実施し、サポーターとは別の切り口で活動しています</p>
71	ワークショップデザインdescribe with		●	●	●					<p>■2025年8月に北海道消費者協会主催の消費生活リーダー養成講座でサステナビリティ・SDGsの研修を担当し、食品ロスの話題を提供。 ■2025年9月に実施した北海道消費者大会のシンポジウムに登壇し、活動の紹介を実施。 ■2025年11月に北海道の泊中学校・神恵内中学校の全校生徒向けに、食品ロス削減を体感できるワークショップ「食べ残しNOゲーム」を実施。 自治体の垣根を超えた中連携での開催となった。 ■2026年2月北海道士別市主催の消費生活見守りサポーター養成講座でワークショップを担当し、フードロスだけではなく自身のウェルビーイングと消費行動のつながりを体感するワークを実施。</p>
72	フードバンク薩摩	●		●						<p>食品ロス削減ガイドブックを基に情報編、食品ロスとは、日本の動き。世界の動きに始まり、実践編の消費者が実践できること等、初歩的な事を説明。子供食堂開催時に毎月1回。食事ができるまで、また、終わってからスタッフに説明を行う。お母様方は、勿論、子供達も食べ残し等自分のできる事に気づいてくれた。</p>
73	特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川			●	●		●	●		<p>今度の特徴は、大学の授業として食品ロスの現状から削減の対応や対策について一緒に考え、実際に学園祭で実施するなどの成果がありました。</p>
74	フードバンクさんぶ	●						●		<p>・ちいき食堂・フードパントリー等の独自イベント時に賞味期限明記の上、食品ロス削減推進ポスターを掲示。 ・スーパー等の店舗より箱潰れ、袋破れ等で販売不可商品の引き取りを実施。</p>
75	岡山西温暖化対策地域協議会（フードバンク岡山西）	●						●		<p>福祉施設、貧困家庭、子ども食堂、福祉協議会に提供</p>
76	フードバンクそお		●	●	●			●		<p>イベントでフードドライブを行い、啓発活動、アンケートなどを行いました。 学校の授業で食品ロス削減の授業。食品ロス削減啓発冊子「消費者庁xうんこドリル 食品ロス」を送っていただき、ドリルを使って話をしました。 食品事業者等から食品の提供を受け、生活困窮者等に提供しました。</p>
77	特定非営利活動法人 岡山県社会復帰支援機構（フードバンク事業部「元気の家」）			●				●		<p>当法人は、岡山県指定の住宅確保要配慮者居住支援法人の活動を通して、食品ロス削減の推進を目標として、フードバンク活動を中心に地域における食支援活動を実施しています。具体的には、政府備蓄米や寄付食品を活用し、子育て世帯・単身高齢者・低所得者・刑余者や生活支援を必要とする世帯に対して食品提供と食品ロス削減の意識啓発に取り組んでいます。また、社会福祉協議会・社会福祉法人や子ども食堂など地域の関係団体と連携し、継続的な支援体制の構築に努めています。</p>

令和7年度食品ロス削減推進サポーター活動報告

任意回答 計128団体（個人を含む）

NO	団体名（順不同）	団体独自の活動	地公体連携	地域イベント等	学校授業	社員教育	事業者等への助言	事業者連携	その他	具体的な取組内容について ※自由記述
78	一般社団法人愛媛県晴活	●			●		●			フードドライブ：家庭で余った食材を回収し、福祉団体へ寄付をした。 規格外野菜の積極利用：形が不揃いな食材を惣菜などを子ども食堂に提供し活用した。また、家庭での取り組みとして、放課後デイサービス、フリースクール等を訪問し、0歳～18歳までの子どもたちを対象に、買い物の際の棚からとる「てまえどり」、外食時などは食べきれぬ量を注文し、食べ物を残さないことなど「うんこドリル」を使用しながら講話を行った。
79	もったいないNARA	●		●				●		月1回、市民生活協同組合ならコープから寄附いただいた食品を奈良県内の他のフードバンク6団体に配布 週1回、市民生活協同組合ならコープから寄附いただいた果物等の生鮮食品を奈良県内の福祉団体に配布 奈良県内の環境団体等が実施するイベント等に9回出展し、フードドライブ及び啓発活動を行った。 当会主催の学習会、交流会を各1回実施した。
80	名古屋学芸大学管理栄養学部	●								教員は授業（調理を含む実習）の中で食品ロス削減の意義等について講義した。学生は授業内の課題等に取り組むにあたり、食品ロス削減を心がけ、周囲の学生にも食品ロス削減への配慮を促した。
81	特定非営利活動法人なごや空地・空家管理センター	●		●						西部地区における中学生の炊き出し訓練におけるサポート時の食品ロス啓蒙活動等。 当NPOの代表及び理事が首長及び地方議員しかいないため、政治活動とNPO活動を切り離して実施しているため、自治体とは距離を置いて活動している。
82	一般社団法人愛知県食品衛生協会							●		子ども食堂
83	尚綱大学	●			●				●	尚綱ボランティア支援センターにおいてフードドライブを実施し、学生や教職員に食品ロス削減への取り組みを呼びかけました。また、学園祭では展示を通じて食品ロスに関する啓発を行い、来場者に問題への理解を深めていただく機会を提供しました。さらに、授業内でも食品ロスに関する啓発を取り入れ、日常的に食品ロスを意識できる学びの環境づくりに努めました。
84	大阪友の会	●		●						団体が主催の講習会で食品ロス削減の工夫を発表。団体の会員それぞれが食品ロス削減に努める。
85	東海学院大学医療栄養学科	●	●	●	●	●	●	●	●	学内の食品残渣を堆肥化し慣行圃場・有機圃場にて年間20種類の野菜を栽培し、出荷できない規格外野菜（農林水産省温室効果ガス削減見える化にて最高位の星3つ取得）を主軸とした食品ロス削減やエシカル消費の啓発活動を行政機関と連携し多数展開（幼小中高での出前講座、企業・地域へ講師派遣、ワークショップ、食品ロス削減レシピ本作成、食品ロス削減リメイク料理動画制作、環境・健康フェア開催、パネルディスカッション開催、フードドライブ、ローリングストック、子ども食堂、規格外野菜Café「さらまんじゅ・とーかい」の運営、菓子工房での製造・キッチンカーでの販売等）している。2025年度の食品ロス対策関係の対面イベント参加者11,556名であった。食べきり運動の強化によって学内食品ロス量を昨年度に引き続き前年比0.61t削減し、2030年までの半減を目指す。また、規格外野菜等を利用した6次産業化の取り組みを産学官連携にて展開し、2025年度は15品の商品化を行い、商品を通じて食品ロス削減の啓発活動を展開した。引き続き市場に流通することのできない規格外野菜C級品を産学官連携にて弁当に商品化し、1ヶ月で3万食を販売、規格外野菜の消費拡大を図った。
86	NPO法人ひまわり	●						●		食料支援の際に、一概に品物を渡すではなく、必要なもののみをお持ちいただくこと、ご家庭で不要なものは他のご家庭にお渡しするので「お戻しBOX」に入れていただけるよう促した。 地域フードバンクと連携し、賞味期限の近い食品を「いま」必要とされる方に積極的にお届けした。
87	NPO法人まち・ネット・みんなの広場	●	●	●				●		・東海市より委託を受けて運営しているHP「とらかい3R」にて、毎月食品ロス削減にまつわるコラムや、消費者庁から発信される最新情報（数値や取り組み）を掲載し広く市民に関心を持ってもらうよう心掛けています。フードドライブとして食品を寄付頂いた際には、寄付した食品がどこで役立てられたかをHPに明記して、さらなる協力を仰ぐようにしています。コラムにはローリングストックにまつわる食品ロスを減らせるアイデアを掲載しました。 ・フードドライブは市民活動センターにて、通年及びイベント時には強化月間として行い、市の公式LINEや広報にも掲載して頂いております。食品だけでなく乳幼児用のミルクも回収し、市内の重症心身障害児者施設にて活用頂いております。 ・3Rイベント時に子ども向け食品ロス削減啓発冊子や、NPO独自で作成した「食品ロス事前チェックシート」を配布しました。 ・東海市が市民向けに行ったごみや資源に関するアンケート調査においても、食品ロスを意識しやすい内容になるよう、助言を行いました。

令和7年度食品ロス削減推進サポーター活動報告

任意回答 計128団体（個人を含む）

NO	団体名（順不同）	団体独自の活動	地公体連携	地域イベント等	学校授業	社員教育	事業者等への助言	事業者連携	その他	具体的な取組内容について ※自由記述
88	広島文教大学人間科学部人間栄養学科							●		1.フードドライブ活動の取組み ・人間栄養学科1年生全員で、10月から11月にかけてフードドライブ活動を行った。活動にあたり広報用のポスターやリーフレットを作成し、地域住民及び学内に周知した。 ・活動場所は、11月2日の大学祭会場での活動を主軸とし、広島文教大学人間栄養学科内や、大学附属幼稚園及び附属高等学校にも協力を呼びかけ、食品の回収を行った。 ・協力して頂いた方に、食品ロス削減に関する啓発リーフレットを配布した。これも学生が作成したものである。 ・回収した食品は、仕分けをし、フードバンク「あいあいねっと」に持ち込み、地域の団体や家庭等への提供に活用された。 ・以上のフードドライブ活動は、広島市環境局環境政策課及びフードバンク「あいあいねっと」との協働で行った。
89	NPO法人ハッピーライド		●	●						保育園の5歳児向けに①食品のもったいないについて知る②自分達のできることを考える③食品ロスにしないための工夫を学ぶをテーマにかいじゅうステップSDGs大作戦の動画を魅せたり楽しませながら飽きさせない工夫をして講座を行った。 公民館主催の親子向けの講座では、夏場のエコクッキングが希望だったため、廃棄されるベスト3に入っていた豆腐ときゅうりを使って、豆腐チップスときゅうりのカキ氷（メモリと名付けてます）を作りました。捨てずに工夫次第でおやつにもなること伝えました。
90	特定非営利活動法人ふぁみりあネット	●							●	日々の生活の中で意識を持つことが必要と思われることから、啓発活動を試みた。 法人総会イベントとして、講演：もっと知ろう！冷凍食品～1食1食が「健康貯金」～ 講師：三浦佳子氏(消費生活コンサルタント)を開催 法人の会報誌において、記事掲載・啓発パンフレット同封 地域の集会でミニ講習会開催 啓発ポスターの掲示 ほか
91	特定非営利活動法人ふぁみりあネット	●							●	日々の生活の中で意識を持つことが必要と思われることから、啓発活動を試みた。 法人総会イベントとして、講演：もっと知ろう！冷凍食品～1食1食が「健康貯金」～ 講師：三浦佳子氏(消費生活コンサルタント)を開催 法人の会報誌において、記事掲載・啓発パンフレット同封 地域の集会でミニ講習会開催 啓発ポスターの掲示 ほか
92	ひとえの会	●	●							・世田谷区2R推進会議に参加し、大学・事業者と交流し、会議主催の啓発イベントに参加。（25.07.19 農大・子どもエコゼミ） ・25.10.09 世田谷区消費生活課のステップアップ講座で 出前講座「食品ロスって何？～いただきますももったいない」を実施。 ・25.11.08 世田谷区祖師谷まちづくりセンター向けに出前講座「食品ロスって何？～いただきますももったいない」を実施。 ・25.12.10 昭和女子大学粕谷ゼミ向けに出前講座「SDGsと食・環境から見るエシカル消費」を実施。
93	近畿農政局兵庫県拠点								●	農林水産省近畿農政局兵庫県拠点の広報誌「農政局だより@ひょうご」2025.10（Vol.115）に「食品ロス削減」を掲載。 https://www.maff.go.jp/kinki/tiiki/hyogo/pr/h_satt/attach/pdf/h-satt202510.pdf 農林水産省近畿農政局兵庫県拠点の広報誌「農政局だより@ひょうご」2025.12（Vol.117）に「おいしい食べきり（全国共同キャンペーン）」を掲載。 https://www.maff.go.jp/kinki/tiiki/hyogo/pr/h_satt/attach/pdf/h-satt202512.pdf
94	山形大学生協							●		地域生協（生協共立社）と協力して、大学生協店舗前にて山形大学の学生向けのフードパントリーを実施
95	別府清部学園短期大学 食物栄養学科	●	●							○独自イベント「Mizobe食のフェスタ」にて高校生や地域住民等に対して食品ロス削減に向けたポスター掲示やパンフレットの配付 ○大分県と連携した「食品ロス削減推進サポーター研修講座」の開催 ○食品ロス削減に向けたレシピの検討

令和7年度食品ロス削減推進サポーター活動報告

任意回答 計128団体(個人を含む)

NO	団体名(順不同)	団体独自の活動	地公体連携	地域イベント等	学校授業	社員教育	事業者等への助言	事業者連携	その他	具体的な取組内容について ※自由記述
96	生活協同組合コープみらい 千葉県本部				●					千葉県内の小学校6項でのべ14回、食品ロスを含めたSDGsに関する出前授業を実施。実施校の学校給食の残菜をスライドで表示することで、食品ロスを自分事として考えてもらった
97	(公財)とやま環境財団	●	●	●	●			●	●	<p>・地球温暖化防止推進員として小学校に出向きチャレンジ10事業で啓発した。小学校公民館等で、富山県フォレストリーダー協会森の寺子屋事業の中で行った。</p> <p>・フードドライブ(FD)の目的、食品ロス削減だけでなく、集めた食品を必要とする人に届けることに着目した。それを実践するためには、食品を集める団体と、必要とする人とつながる団体と、協働することが大事なことである。3年目の今年は、目的を「必要とする人に届けるためのフードドライブ」とした。</p> <p>・1年目は、とやま生協みなみ店と試行的に互いに検討しながら始めた。2年目には軌道にのってきたので、それをモデルにしてアルビス経堂店と開始した。3年目は、8月からファミリーマート4店舗で開始できた。</p> <p>・小学校と学童への説明では、地球温暖化の仕組みとその防ぎ方の説明と、食品ロスを減らすことの説明をした。</p> <p>協働団体 一般社団法人富山県若者生きづらさ寄りそいネットワーク協議会、とやま生協、とやま環境財団、富山県消費者協会、富山県消費生活センター、富山市消費生活センターなど。</p> <p>5月 富山県若者生きづらさ寄りそいネットワーク協議会総会で、今年度もFDを継続実施することが決まった。</p> <p>6月 富山市立藤ノ木小学校・187人・4年生 チャレンジ10前期授業</p> <p>7月 富山市立奥田小学校、学童こぼと会第1回・18人・1～3年生 ぼくたちわたしたちのSDGs</p> <p>8月 藤ノ木福祉会第1回・28人・3,4年生・藤ノ木サックス館 ぼくたちわたしたちのSDGs</p> <p>8月 滑川市こどもエコクラブ(北加積小学校下)・31人・1～3年生・北加積地区公民館 うんこドリル地球温暖化の説明。デコ活すごろく実施。</p> <p>9月 富山県若者生きづらさ寄りそいネットワーク協議会 全体会で活動状況説明と協働依頼。</p> <p>9月 富山市立藤ノ木小学校・187人・4年生 チャレンジ10後期授業</p> <p>10月 富山県消費者大会 「必要とする人に届けるフードドライブ」の活動状況発表・展示(30人)・富山県民共生センター</p> <p>11月 富山市みんなの消費生活展 「必要とする人に届けるフードドライブ」の活動状況発表・展示(50人)・富山駅南北通路</p> <p>12月 奥田小学校、学童こぼと会第2回・16人・1～3年生 うんこドリル地球温暖化の説明。</p>
98	一般社団法人i-Sora								●	今年度は活動なし
99	公益財団法人千葉県老人クラブ連合会	●								<p>・老人クラブの役員会・研修会等でチラシの配布を行った。</p> <p>・1～2月にかけて行った千葉県民向けイベントでチラシの配布を行った。</p> <p>・事務所の外掲示板にポスターを掲示した。</p>
100	公益社団法人盛岡法人会	●								<p>・会員を対象とした研修会の開催</p> <p>・食品ロス削減推進サポーター育成講座の募集</p>

令和7年度食品ロス削減推進サポーター活動報告

任意回答 計128団体(個人を含む)

NO	団体名(順不同)	団体独自の活動	地公体連携	地域イベント等	学校授業	社員教育	事業者等への助言	事業者連携	その他	具体的な取組内容について ※自由記述
101	生活協同組合コープデリにいがた	●		●				●		<p>・各地域で行う組合員活動や会議等でフードドライブコーナーを設置し参加者へ呼びかけました。回収品は各地域のフードバンクへ提供しました。</p> <p>・地域で活動する委員の研修会で新潟県フードバンク推進協議会から講師をしていただき、フードバンクの現状と取り組みなどについて学習を行いました。</p> <p>・子ども食堂(11団体)やフードバンクへ定期的に食品の余剰品を提供しました。</p>
102	一般社団法人GRAF	●		●	●					<p>2025年1月1日から同年12月31日までに取り組んだことをまとめました。</p> <p>【食事会の実施〈2月8日〉】 神奈川県立保健福祉大学のサークル(食育サークル シーラボ☆)と共同で大学生を対象とした食事会を開催した。参加人数は運営を含め約20人。関東圏にある2つのフードバンクからいただいた期限が間近の食品を活用し、調理・食事を楽しんだ。</p> <p>【フードドライブの実施〈7月1日～15日〉】 立命館大学 大阪いばらきキャンパスにて、茨木市民や大学生から家庭にある余剰食品を集め、同大学の学生に配布するフードドライブを行った。実施時期は7月上旬から中旬にかけて。立命館大学総合心理学部森知晴ゼミと共同で企画・運営し、食品を寄付して下さった方には地域通貨「いばくるコイン」を付与した。</p> <p>【食への想いを煮込む会の実施〈10月21日〉】 関西を中心に活動する「食彩PROJECT」と共同開催したオンラインイベント。「家庭における直接廃棄の削減」をテーマにグループワークを実施した。各グループの発表後に投票を行い、優れた提案を選出した。</p> <p>【団体内での「勉強会」の開催〈通年〉】 食品ロスへの理解・関心を深める会を延べ6回開いた。食品ロス削減ガイドブックに書かれた内容を理解する「インプット」の時間だけでなく、自分の考えを整理したり、他者に伝えたりする「アウトプット」の時間も設けた。</p> <p>【イベントへの参加〈通年〉】 団体として行う食品のロス削減の活動を伝えたり、食の課題をまとめたチラシを配布したりすることで、食への関心を高めようとした。参加したイベントの数は13にのぼる。以下は、その一部である。</p> <p>エコプロ2025(12月10・11・12日) 「一般財団法人ユースエコ」と共同出展し、食品のロスの問題についてまとめたポスター展示およびチラシ配布を行った。また、食品ロスに関するアンケート調査を実施し、小学生を中心に約250人に回答いただいた。</p> <p>横浜市立東高等学校PremiumProgram(12月15日) 「学食における食品ロスを減らすにはどうすれば良いか」をテーマに、高校1・2年生の前で授業をした。参加した生徒はグループワークを通じて、食品のロスの発生要因やその解決策について検討し、グループごとに意見をまとめてもらった。</p>
103	個人								●	<p>(1) 食育講話(和食文化継承リーダーとして) 農林水産省 和食文化継承リーダーとして、参加者に向けて成長期の身体づくりと食事の関係について話を行った。 難しい表現は使わないようにして、子どもたちに問いかける形で進化した。</p> <p>(2) 食品ロス削減に関する取り組み 消費者庁 消費者教育推進課 食品ロス削減サポーターとして、テキスト資料を用い、食品ロスに関する講話を行った。</p> <p>(3) 体験型プログラム(デコ巻き寿司レッスン) 講話後、お米を主食としたデコ巻き寿司(サンタクロース)の制作を実施した。</p>
104	個人				●				●	<p>学校での出前講座、地元のラジオ局に出演し、食品ロス削減を含む地球温暖化の対策の話題を発信</p>

令和7年度食品ロス削減推進サポーター活動報告

任意回答 計128団体(個人を含む)

NO	団体名(順不同)	団体独自の活動	地公体連携	地域イベント等	学校授業	社員教育	事業者等への助言	事業者連携	その他	具体的な取組内容について ※自由記述
105	個人	●	●		●					令和7年度 ①なんでやろう？食品ロスカードゲーム 吹田市内小学校 5校にワークショップ ②GetThePoint SDGsゲーム 吹田市内小学校 3校にワークショップ ③ブラのきもち ボードゲーム 吹田市内小学校 1校にワークショップ ④吹田市教育課題別研修 GetThePoint ワークショップ ⑤くるくる環境スクール GetThePoint ワークショップ ⑥もったいないバザール 127名参加 なんでやろう？食品ロスカードゲーム簡易版 なんでやろう？食品ロス釣りゲーム 吹田市7ヶ条環境かるた ⑦もったいない活動隊 ATC なんでやろう？食品ロスカードゲーム簡易版 ⑧もったいないEXPO エキスポシティ ⑨食品ロス0フォーラム QUINT BRIDGE ⑩食品ロス削減推進サポーターフォローアップ
106	個人	●	●	●				●		各地域のイベントや研修会、料理教室等で研修したり調理の際に伝えた。着物リサイクル推進ファッションショーやエシカル消費マルシェを開催した際に食品ロス削減の重要性を伝えた。島根県が開催する食品ロス削減講演会へ参加を促したり、一緒にワークショップを開催した。
107	個人								●	活動実績なし。 地球温暖化防止活動推進員としてチャレンジ10の授業内で食品ロスの話は少ししました
108	個人	●								初年度、資格取得後半年の期間であり、具体的な活動は行っていませんが、食品ロスの情報収集や長崎県内での啓蒙活動などの調査に努めました。
109	個人								●	個人としての活動であるため、家庭内での活動を記載します。 大根の葉の利用及び皮を美味しく食せないか挑戦、ニンジン利用時皮むきをやめた、食材を使用する量以上に購入しない、特価品だからと言って必要以外のものは極力購入しない、余った食品の冷凍保存、賞味期限切れ品を直ぐに捨てない、適した保存方法の適用、等行いました。
110	個人			●						職場(児童館)にて利用者対象に食品ロスに関するクイズパネルを作成・掲示し、子ども達と楽しむ中で理解を深められるようにした。
111	個人	●								LINE、zoomなどによるオンラインの仲間内(地方公務員)の食品ロス削減に関する勉強会。
112	個人		●	●	●					2025年度の取り組みは市内のイベント(産業祭、市民団体の発表の場など)で消費者庁から頂いた食品ロス削減のパンフレットを活用して、イベント参加者へ協力を求めました。市内の小学校4年生(総合的学習)と共に学校給食からの加工残材の堆肥作りやミカン皮のピール作りを行い、報告書作りに協力させて頂きました。
113	個人								●	令和7年度 彩の国環境大学(基礎課程・実践課程)に参加し、食に関することをはじめ、環境関連の理解を深めました。

令和7年度食品ロス削減推進サポーター活動報告

任意回答 計128団体（個人を含む）

NO	団体名（順不同）	団体独自の活動	地公体連携	地域イベント等	学校授業	社員教育	事業者等への助言	事業者連携	その他	具体的な取組内容について ※自由記述
114	個人		●							令和7年10月2日 港区立消費者センター主催の消費者教室 ～コメの鮮度測定や試食で学ぶ～（食品ロス削減術）参加。 港区民を対象とした講座を職員の方と共に開催した。 港区の職員1名 消費者庁食品ロス削減推進員3名（消費生活アドバイザー1名、消費生活コンサルタント1名、消費生活相談員1名） 合計4名で実施 座学 ・食品ロスの定義・現状、 ・食品ロスによる経済損質 ・温室効果ガス排出 ・食料自給率の現状・家庭でできる食品ロス削減の技術 実験質に移動 実験 ・精米の試食と鮮度測定 ・飲料の試飲とpH測定を行った。
115	個人								●	家庭内でフードロスを意識し調理をした。 家族で話し合った。
116	個人								●	職場で食品ロスについて情報発信
117	個人				●					坂井市内の幼稚園（5か所）にて紙芝居、クイズ、ダンスを行い、残さず食べる大切さを教えた。
118	個人		●	●	●			●		白井市と共催で子ども食堂の講演会を開催。また食品ロス削減サポーターとして消費者庁の講演会に参加。Co2の根本的なところは食品廃棄物の燃焼が原因だと知り、益々廃棄を減らし、子ども食堂へ有効活用が大事だと知る。
119	個人								●	SNS情報発信
120	個人		●							市川市の環境課と一緒に市川市環境活動推進員のメンバーの勉強会を開催した。（1）食品ロス削減とは（2）環境再生農業の取り組み（3）コンポストを知ろう（4）ゴミにしない（5）フードバンクを知ろう（6）エコクッキングの内容で勉強会を開催。NPOの方に公演していただく回もありましたがほとんどが学びあいなので、各自が調べてきたことを話し合っ発表するワークショップを中心にした勉強会でした。
121	個人				●					チームで出前環境講話を行っています。2025年6月以降、講話資料を最新データに更新しました。タイトル「食べものが泣いている」について、私自身が、2025年9月12日、小学4年生、21名に講話を行いました。
122	個人								●	職場（自身がライン長を務める部署）に対し、研修を実施。 家族、知人へのフードロス啓発活動
123	個人								●	今年度は具体的な活動は出来ておりませんが、自分の学びの時間となりました。来年度は啓発活動ができるよう計画を立ててまいります。
124	個人		●							食品ロスの食料生産量との比較、温暖化との関連、食品ロス削減の手段等。

令和7年度食品ロス削減推進サポーター活動報告

任意回答 計128団体（個人を含む）

NO	団体名（順不同）	団体独自の活動	地公体連携	地域イベント等	学校授業	社員教育	事業者等への助言	事業者連携	その他	具体的な取組内容について ※自由記述
125	個人	●	●							<p>○通年展示：港区立消費者センターの掲示板にサポーターのコーナーを設けてもらい食品ロスに関する情報を通年展示しました。消費者教室などの来訪者に展示を見てもらうことができました。</p> <p>○10月4日：消費者センターで開催した表示の見方教室～米の鮮度測定や試食で学ぶ～食品ロス削減術～において、食品ロスの定義、現状、食品ロスによる経済損失、温室効果ガス排出、食料自給率の現状などをお話ししました。</p> <p>○12月1日：第27回港区食品衛生消費者懇談会 もったいない！をなくそう～食品ロス削減と食品安全について～に参加し食品ロスに関する知見を深めました。保健所主催の食品ロスに関する講座はとてめずらしく、事業者の取り組みを知ることができました。</p> <p>○12月5日：食品ロス削減推進サポーター向けフォローアップ講座として、東京農業大学国際食料情報学部 准教授 野々村 真希氏「家庭の食品ロスと消費者の行動、食品ロス削減のポイント等について」を受講最新の調査データなどを紹介していただきました。</p> <p>○12月18日：青山いきいきプラザで開催した「どこをみたらわかるの？安全・安心な食生活のための表示」と題する出前講座で、食品表示の見方や、食品ロスを減らすための食品の選び方などをお話ししました。</p> <p>○3月14日：港区立消費者センター消費生活展において「啓発カルタ」を展示し、消費生活展の来場者に見てもらいました。</p> <p>○3月25日：青山生き生きプラザで開催した「健康食品・サプリメントの注意点と上手な使い方」と題する出前講座で、健康食品に関する講義の中で賞味期限についてのお話をしました。</p>
126	個人								●	<p>柔術教室に通う生徒を対象とした、食育およびデコ巻き寿司レッスンの実施 （教室には幼児から成人まで、男女問わず幅広い年代の生徒が在籍しているが、今回は子どもを主対象とした依頼） 消費者庁 消費者教育推進課 食品ロス削減サポーターとして、テキスト資料を用い、食品ロスに関する講話を行った。 テキスト3ページでは、日本で捨てられている食べ物の量について触れ、 「日本では毎日、日本国民全員がご飯茶碗1杯分の食べ物を捨てている」という事実を紹介した。 食べられるものが廃棄されている一方で、十分な食事ができない人もいる現状を伝え、食べ物を大切にすることを意識を育む話を行った。 テキスト45ページでは、保護者も参加していたため、 ・買すぎない ・作りすぎない ・食べ残さない という、家庭で今日から実践できる工夫について共有し、 日常の選択が食品ロス削減につながることを説明した。 テキスト47ページでは、食品を捨ててしまう主な理由として、 1位 食べきれなかった 2位 傷ませてしまった 3位 賞味期限・消費期限切れ が挙げられていることを紹介し、拳手を交えながら、参加者自身や家庭での食生活を振り返る時間を設けた。</p>
127	個人	●	●							<p>R7.1.18 R7.8.17 ・年2回尾張旭市環境課主催で3切エコッキングを毎年実施。対象は親子。リピーターの人が多く食べキリ、使いキリ、水キリが定着しつつあると思う。内容は地産地消の食材、旬の野菜の美味しさ、資源循環を加味した調理実習を実施。</p> <p>R8.1.31 ・瀬戸環境塾の1講座として親子対象の調理実習。生ゴミを減らす手段として野菜くずを出さないための食材の使いまわし、自分が食べられる分量を知る等、食品ロスについて座学も交えて行った。</p>

令和7年度食品ロス削減推進サポーター活動報告

任意回答 計128団体（個人を含む）

NO	団体名（順不同）	団体独自の活動	地公体連携	地域イベント等	学校授業	社員教育	事業者等への助言	事業者連携	その他	具体的な取組内容について ※自由記述
----	----------	---------	-------	---------	------	------	----------	-------	-----	--------------------

その他、食品リサイクルの取組

1	富士食品工業株式会社								●	廃棄アイスなどを飼料や肥料にリサイクルをしました。
---	------------	--	--	--	--	--	--	--	---	---------------------------